

令和3年5月14日（金曜日）



【参議院国交委】足立敏之議員「港湾分野の予算拡大が必要」



港湾インフラ整備の重要性を強調する足立議員

足立敏之参議院議員（自民党）は13日の参院国土交通委員会で質問に立ち、港湾分野の予算を拡大し、港湾インフラの整備を進めていく必要があると訴えた。特に大型化するコンテナ船に対応できる水深16m以上の岸壁が日本の港湾に少ないことに触れ「拠点を絞って、わが国の港湾を中国や韓国に負けないような水準に高めていく必要がある」と指摘。さらに「地方の港湾も老朽化が進んでいるので、きめの細かいサービスが維持できるように老朽化も併せて進めていただきたい」と求めた。

港湾整備予算について国交省港湾局の高田昌行局長は、1996年度をピークに減少し、近年は若干の増加傾向にあるとしながら「国民の命と暮らしを守るために防災・減災、国土強靱化に必要な港湾インフラの整備を加速する必要がある。老朽化した施設への対応に限っても、今後30年間で必要な全国の港湾施設の維持管理・更新費用として事業費ベースで6～8兆円程度を見込んでいる」と説明。

足立議員は「日本のインフラを国際的にも恥ずかしくない水準にしていくために、この辺りで大きく舵を切って、船舶大型化の対応や脱炭素化の推進などの視点で港湾分野の予算を拡大して整備を進めていく必要がある」と強調した。赤羽一嘉大臣は「集約化と一つ一つの港湾の生産性向上に尽きる」とした上で「予算を増やす努力をすることは大事だが、それが大前提で予算をどう使うのか。集中して生産性を向上していくことに切り込んでいかなければならない」との見解を示した。